

ああ、結 婚！

—婚活日記—

第14回

黒田長宏

<2020年4月5日>

1日にも少し書こうかと思ったのだが、3か月は長いようで、もう締め切り日があつという間な感じにさえなってきた。日記なのだからこら辺で少し書いておかないと思つた。

新型コロナウイルス真つ最中で先が見えない今……。私のライフワークの結婚難問題改善。『婚難救助隊』のホームページは、ユーチューブでの私のアピールを前面に押し出す形にして続けているが、ブレイクしない。

あるマッチングサイトに近場の人が出てきたので、条件が少し理想とずれる面があるものの、依頼の文章も添えてみ

た。反応があるだろうか。結婚難はじわじわきて、気づくと手遅れのような感じだが、生命的には新型コロナウイルスのほうが怖い。しかし悪玉コレステロールが下がるという市販薬をアマゾン経由で購入してみた。明後日には届くのではないだろうか。どうにもコレステロールだけが下がらない体質のようである。

<4月13日>

昨日久しぶりに某マッチングサイトでマッチングしてくれた人が出た。今日帰宅したら返信が入っていて、また返信した。今度こそメル友から続けばよいのだが。

<4月19日>

(私自身のブログや SNS に既出した文章)

感染者や死亡者が世界で万単位で出ている真つただ中にこうしたことを書いていくのは批判や炎上ものだろうが、過剰に動くようになってしまった人類が外出自粛というストップをかけられることで、有り余る工業製品などがストップしたり購入が控えられると、空気や水などの自然環境については悪くなっていないのではと推測する。交通事故死も今年はずだ。実際には、茨城県にも特例措置が出されたいので他都道府県からの来県者が減るのかも知れないが、数日前の通勤では正月や盆やGW以外の平日に早朝から足立区とか品川区とか湘南まで、何の用事がある

のかという車が6台前後も入りこんできていたし、今日も家の前の川で若者4人が舟で釣りをして通り過ぎていった。民主主義自由社会では自粛をしない人も出てきてしまう。その過剰が、サッカーのワールドカップや世界野球などの渋谷あたりの群衆とゴミの跡だったりするのだろう。

こんなコロナの危険な出来事にも、自然環境や働き方や、汚してしまったことや、過剰に品物があふれなければ生活が維持できなくなってしまう社会の仕組みや、裕福といわれる国での貧富の差などの異常な状態が、この不自由な時期に考え直される面も後々出てくるのかも知れない。それを体験できるためには、まずこの時期を生き延びるしかない。外出の自粛で集団感染が早く収まる可能性があるというならば、ここは外出自粛すべきだろう。付け加えれば、私がライフワークにしたい結婚難問題の解決にしても、プレイボーイやプレイガールの自由さが、男女の関係を乱し、感染させ、援助交際や不倫や離婚などを増大させ、結婚したいのに出来ない真面目な男女を多く生み出してしまったのかも知れない。多種多様な商品のようには平常時には喜ばれるが、選択を遅らせ、手に入らないような高価なものまで手に入れようとして生涯を終えてしまうようなことが、結婚難問題にもあるのではないか。だからといってどんな人やものでもいいというのは感情が許さない。そうした感情を形成したのが自由で多様な社会構造だったのではないかと、この不自由な時期に感じさせるので

はないか。だから、夜のプレイゾーンからの感染者の問題がオブラートにくるんだような言い含め方で言われたのではないか。愛する夫婦の家庭ならば、相互感染の危険もあると同時に、妊娠や出産が増加するかも知れない。人体を傷つけるウイルスだからその存在に対しても思考は難しくなるが、人類の作り上げてしまった資本増大の方法論を反省、再考させる意味も持っている変革の大きな出来事になるのかも知れない。

<4月19日の2>

新型コロナウイルスで考えたことを貼り付けるために開いたら、まだ13日の続きが書かれていなかった。翌々日に早々とブロックされてしまった。マッチングアプリは競争が激しすぎて永遠にマッチできないのかも知れない。私のような人にとっては。

<5月9日>

今回も私自身再婚に成功しないまま提出となってしまうし、個人事業の『婚難救助隊』にしてもブレイクしていない。新型コロナウイルス禍というすごいことになってしまった今回だが、立派に経営していたところでさえ窮地に1か月や2か月で追い込まれるのだから、いかに個人事業というか、婚難救助隊という方法を社会的有意にすることが難しいことであるかを思い知らされてもいる。某マッチングアプリも2人ほどちょっとだけ相手が反応したが、返したら2人とも速攻でブ

ロックという、またまた持ち上げられて落とされるというストレスを与えられた。しかし、新型コロナウイルスの影響で考えてしまって婚活アプリをやってみたという女性を幾人かみかけた。こういうのは東日本大震災の時にも幾らか生じた事柄だと思う。人は寂しくなったり不安になると人を求めたくなるということか。しかし、新型コロナウイルスがある程度終息すると、喉元過ぎれば熱さを忘れるで、元気で強い女性たちは、あなたは一人で生きられるのね。状態に戻るのだろうか。今、婚難救助隊のホームページを見たら、あと8人で5000人閲覧を達成する。これは実現可能だろう。去年の1月23日からスタートして、フェイスブック広告で月1万円を限度にして宣伝してきた、この数字なのだが、関心をもってくれているのは4人程度だと思う。そのうち2人はけっこう、私のユーチューブ動画を閲覧されているようだ。これを少なくとも1000000倍にしなければ、結婚したい人は誰でも結婚できるという社会変革には結びつけないだろう。どうやって個人事業として生活費までまかなえて自営できるのか方法がわからないが、いまや男子小学生がなりたい職業の上位にあるというユーチューバーを目指して結婚難を救助できる実力を養成したいという作戦しか思い浮かばない。そのために、勤務先の休日の前の晩にはビデオ化した映画を1本観るというノルマをけっこう達成していたり、休日にはユーチューブを1本必ずアップするというノルマを課してけっこうやっていたりする。継続は力なりならば、ブレイク

の可能性だって無いわけでは無いのだと信じて、今回はもう提出させていただこうと思う。次回は新型コロナが落ち着いた社会になってもらいたいものだし、私自身はマスメディアに関心を持たれるようなユーチューバーになっていたらいいのにな。もちろんパートナーが見つかっていたらそれが本当の目的なのだけれども。